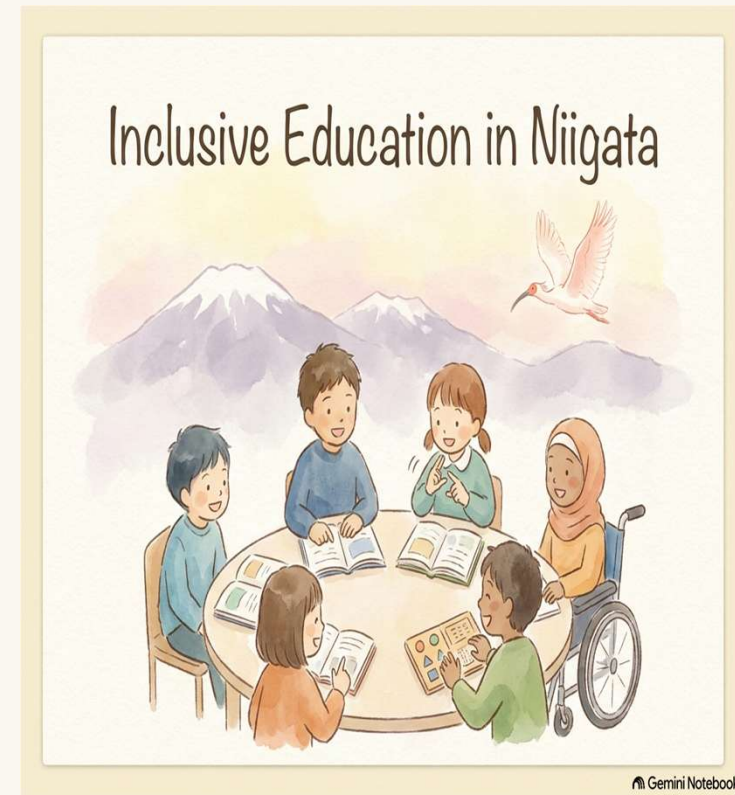


第65回全日本特別支援教育研究連盟全国大会新潟大会 開催地報告

新潟県の特別支援教育の推進と

インクルーシブな未来への展望

新潟県教育庁義務教育課 特別支援教育推進室
室長 疋田 敦士



0. はじめに

自己紹介と開催地からの歓迎のメッセージ

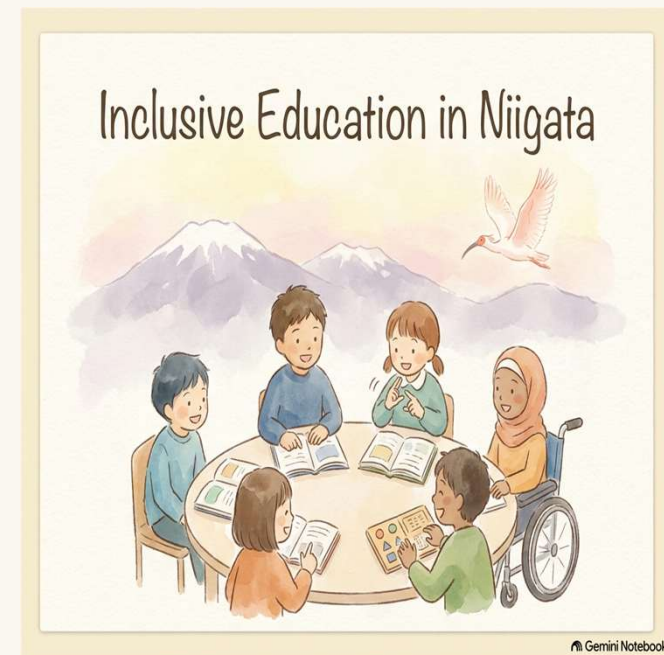
発表者プロフィール

氏名: 疋田 敦士(ひきだ あつし)

所属: 新潟県教育庁義務教育課 特別支援教育推進室 室長

本日の役割: 新潟県の特別支援教育の最前線の実践と未来構想をご報告いたします。

開催地からの歓迎の言葉: 全国から新潟へお越しの皆様を、心より温かく歓迎いたします。「米・雪・人」のぬくもりあふれる新潟での学びが、皆様にとって豊かなものとなることを願っております。



0. はじめに

本日の開催地報告:ロードマップ

1. 新潟県の魅力紹介

「米・雪・トキ・人」のぬくもり、ユーモアあふれる県民性を語る

2. 新潟県の教育振興基本計画

一人一人を伸ばす教育理念と、インクルーシブ教育のめざす人間像

3. 特別支援教育の先進的な推進

学校・学級・通級での画期的な取組、5ブロック就労ネットワーク

4. 未来への展望とまとめ

「共に学び、共に育つ」新潟発のインクルーシブ社会へのメッセージ

1. 新潟県の魅力

「広大な風土、黄金のコシヒカリ、世界をリードする地場技術」

豊かな自然とものづくりの結晶

日本一の大河「信濃川」が育む豊かな大地： 魚沼をはじめとする最高峰のコシヒカリの産地。

伝統と革新が生きる「燕三条の金属加工」： 世界の有名シェフや宇宙産業が指名するノーベル賞晩餐会のカトラリー技術。

四季の美しさと豪雪の適応： 厳しい雪が育む清らかな水と、日本酒の最高峰ブランド群。



1. 新潟県の魅力

「神社数日本一」の歴史、大空を舞うトキのふるさと

実はトップクラスの隠れたポテンシャル

神社数日本一(県内4,500社以上): 京都や奈良をしのぎ、昔から人々が集まり豊かな祈りと共同体を築いてきた歴史。

日本の特別天然記念物「トキ(朱鷺)」: 佐渡で一度は野生絶滅に瀕しながら、手厚い保護と地域住民の愛によって大空へ復活。

ラーメン消費量全国トップクラス(ラーメン王国): 外食ラーメン消費額で全国トップ争いの常連。長岡生姜醤油や燕背脂など独自の食文化。

日本酒の酒蔵数日本一(全国最多の蔵元): 清酒醸造所の数が全国第1位。豊かな雪解け水と米から極上の地酒を生み出す酒どころ。



1. 新潟県の魅力

思わず共感！豪雪と優しさが育んだお茶目な「新潟県民あるある」



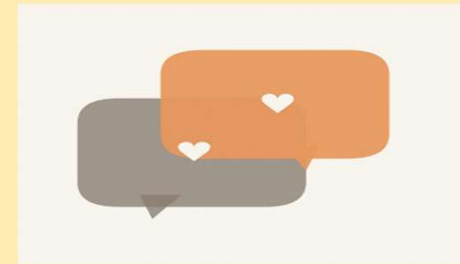
「枝豆」はザルで食べるもの

新潟県民にとって、枝豆は「小鉢」で食べるものではありません。ザルに山盛りにして、一人で大量に、驚くべきスピードで消費するのが、にいがたの夏の日常です。



消雪パイプは冬のオアシス

豪雪地帯を救う、地下水で雪を溶かす「消雪パイプ」。これのおかげで雪の日も平然と普通の靴で歩けます。水が跳ねて靴が濡れるのすら愛嬌です。



優しい口癖「なじらね」

「最近なじらね？(調子はいかがですか?)」「だすけ～(だからね～)」と語り合う会話には、厳しい冬を支え合ってきた粘り強さと、お互いを気遣う温かい「県民性」が息づいています。

2. 新潟県の教育の特色

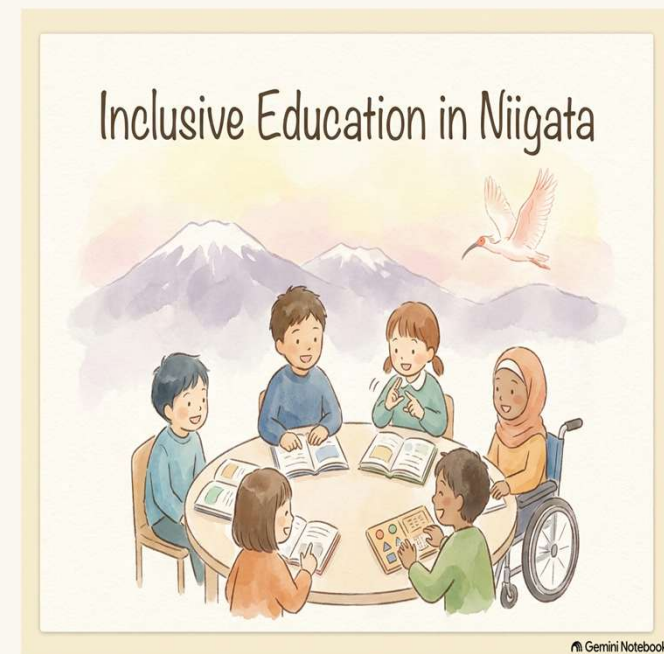
「一人一人を伸ばす教育」～粘り強く未来を創る人を育てる～

第2期新潟県教育振興基本計画(R8.3策定)

基本理念：一人一人の個性に応じた、質の高い豊かな教育の推進。

めざす人間像：ふるさとへの愛と誇りを胸に、夢や希望を持って粘り強く挑戦し、未来を創ることができる人。

特別支援教育への射程：障害の有無に関わらず、すべての児童生徒が自らの可能性を最大化できる「場」の提供が、この計画の核心です。



2. 新潟県の教育の特色

「誰もが等しく豊かな教育を受けられる環境の整備」を強力に実行

I 一人一人の個性や能力を伸ばす教育

児童生徒の特性や個性に応じた確かな学力の育成等

II 誰もが等しく豊かな教育を受ける環境

インクルーシブ教育システム等の推進や生徒一人一人の状況に合わせて学べる高校づくりの推進等

III 児童生徒が安全に安心して学べる学校

いじめ防止等の取組など児童生徒の安全確保の推進等

IV 魅力ある高等教育環境の充実

県内大学・短大の魅力向上と多様な分野における実践的な職業教育等

V 生涯学び活躍できる環境づくり

生涯学習の環境づくりや地域社会と学校の連携の促進等

2. 新潟県の教育の特色

【現状と課題】通常学級の減少と、高まる特別支援教育へのニーズ

新潟県が直面する3つの重要課題

少子化による学校規模の縮小：新潟県内の通常の小中学校では児童生徒数が年々減少し、小規模化・学校の統廃合が進んでいます。

高まる特別支援教育へのニーズと多様化：通常の学級の児童生徒数が減る一方で、特別支援学級・通級指導の対象児童生徒数は、年々増加傾向にあります。

教員の専門性向上と連携体制の再構築：多様な特性を持つ子どもたちに対し、学校全体、ひいては地域社会全体で支える「新しい仕組み」が必要です。

3. 特別支援学校の取組

村松高校・五泉特別支援学校村松分校の豊かな日常的交流

「高校の同一校舎内」だから生まれる最高の一体感

生徒間交流：生徒会行事、開校記念式典での合同合唱の響き合い。さらに、3校合同アート展の開催や、「交流体育」での合同ボッチャ大会を通じた笑顔の通い合い。

教職員交流：定期的な合同連絡会議の開催。生徒支援に係る校内合同研修に加え、分校職員を講師に招いた「高校1年生全員へのソーシャルスキルトレーニング(SST)」の実施。

効果：障害のあるなしを超えて、日常的な同じ空間で共に成長するインクルーシブな文化が定着しています。

3. 特別支援学校の取組

見附高校・月ヶ岡特別支援学校見附分校の教員の専門性融合

授業と生徒相談室「サポートラウンジ」の共創

体育祭・文化祭でのペア競技：体育祭の大玉送りリレーでは、両校の生徒が手を取り合いペアになって激走。前夜祭パフォーマンスでの一体感。

美術授業「アートデザイン」でのGT：見附高校の美術専門教諭が分校の授業にゲストティーチャー（GT）として参加する、質の高い授業展開。

生徒支援室「サポートラウンジ」の運営：見附高校で配慮を必要とする通常生徒に対し、分校の特別支援教諭が相談や具体的アドバイスを行い、学校全体の包容力を底上げ。

3. 特別支援学校の取組

有恒高校・上越特別支援学校有恒学舎の知的・協働の交わり

知を共有し、夏休みの教職員合同研修でチームを強化

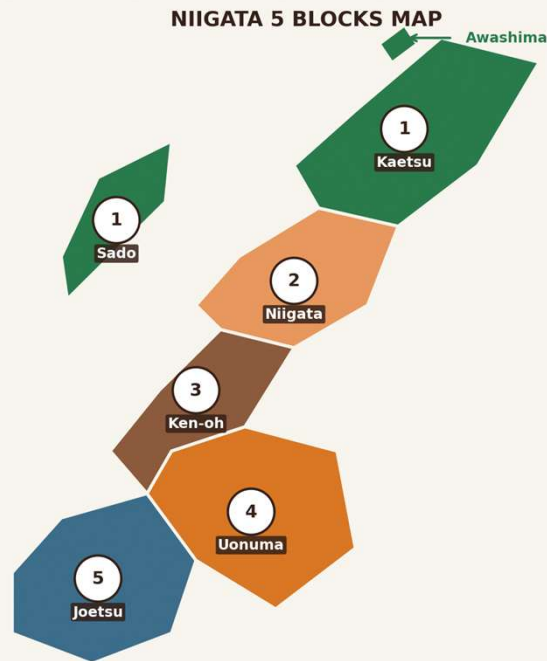
朴斎講演会への共同参加：郷土の先人「増村朴斎」を学ぶ高校主催の伝統的講演会に、分校の生徒も共に参加し知的な学びを共有。

環境美化・安全の協働：体育祭や文化祭だけでなく、日常の屋外清掃活動や合同の避難訓練を日常的に実施。

教職員による夏休み合同研修：長期休業期間中、両校の職員が一堂に会した合同研修を行い、生徒特性への理解と支援法を合同でアップデート。

3. 特別支援学校の取組

県内を「5ブロック」に分割した就労推進体制



Block 1 (Kaetsu): Includes Sado & Awashima Islands

① 下越ブロック

農林水産業・地場製造業との連携による職域開拓

② 新潟ブロック

都市型サービス業・福祉機関連携の最大化

③ 県央ブロック

燕三条のものづくり企業への就労実習と技術継承

④ 魚沼ブロック

地場観光・農産加工企業との安定的な雇用関係構築

⑤ 上越ブロック

製造業・福祉サービスの融合による強固な支援体制

3. 特別支援学校の取組

ブロックマネージャーによる就労成果

広域連携のキーマンとしての3大業務

- 1. 巡回による直接指導と進路指導主事の育成：**ブロック内の各特別支援学校をくまなく定期巡回し、担当教員の人材育成や説明会の質向上を直接サポート。
- 2. 高等部1年生からの企業就労実習の推進：**入学初期からの継続的な就労体験を構築し、保護者・本人の不安を解消して早期の目標設定を可能に。
- 3. 新規職種・作業種の開拓：**ハローワークや企業と情報交換し、特別支援学校の強みを活かせる新しい作業分野を積極的に市場から開拓。

3. 特別支援学校の取組

ブロックマネージャーが繋いだ教育と福祉の連携モデル

教育と福祉が有機的に連携した就労選択支援モデル

モデル事業での抜擢: 昨年度、厚生労働省委託事業として実施された「就労選択支援モデル事業」において、新潟県の実践が全国へ紹介されました。

ブロックマネージャーが中核: BMが福祉側の支援機関、ハローワーク、学校のパイプ役となり、生徒一人一人の適性や就労へのアセスメントを共同実施。

成果報告会での評価: 「教育機関と福祉が極めて高度に連携した手本事例」として、厚生労働省および全国の自治体から称賛を浴びました。

3. 特別支援学級の取組

特別支援学級の現状と、「チーム学校」での組織的アプローチ

特定の教員の「抱え込み」を防ぐ組織づくり

学級数・在籍児童生徒数の増加：新潟県内の公立小中学校においても、特別支援学級の設置数、在籍する児童生徒数は年々右肩上がりに増加しています。

「校内支援委員会」の機能最大化：担任一人で課題を抱え込まず、校長・教頭・コーディネーターを含む全校組織で支援方針を決定・共有する「チーム学校」への転換。

特別支援学校のセンター的機能の活用：地域の特別支援学校による専門的な巡回相談やアドバイス、教材・指導法の支援を積極的に活用し、校内支援体制と指導の質を強化。

3. 特別支援学級の取組

個に応じた合理的配慮の日常化と、心がつながる「共同学習」



① ICTと環境の合理的配慮

タブレットによる視覚的支援(写真カード等)や全校的なクールダウンスペースの整備により、個に応じた安心の学びを保障。



② 心がつながる共同学習

「ただ同じ空間にいる」を超え、教科特性に応じたグループ編成や、双方向での役割分担・意見発表活動を日常化。



③ 主体的な参画と相互理解

学校行事や通常の授業へ主体的に参画。互いの違いを自然に受け入れ、学校全体で共に高め合う「心のバリアフリー」を育成。

3. 通級指導教室の取組

通級指導教室の連携強化～担任・通級・保護者の黄金の三角形～

自立活動の学びを、通常の学級で活かすために

最も急増する通級ニーズ：LD、ADHD、自閉スペクトラム症等の特性を持つ児童生徒へのきめ細かな自立活動指導の充実が、最も強く求められています。

シームレスな「連携シート」の活用：通級指導教室で学んだスキル(感情コントロール、整理整頓など)を、通常の学級担任が教室ですぐに褒めて定着させる連動体制。

保護者と協働した一貫した支援：ICT(タブレット)等の活用により家庭と目標や状況を共有し、学校・通級・家庭が連携したブレない支援を実現。

3. 通級指導教室の取組

『通常の学級における効果的な支援事例集』の圧倒的效果

先生たちの「今日からの指導」に直結する新潟オリジナル事例集

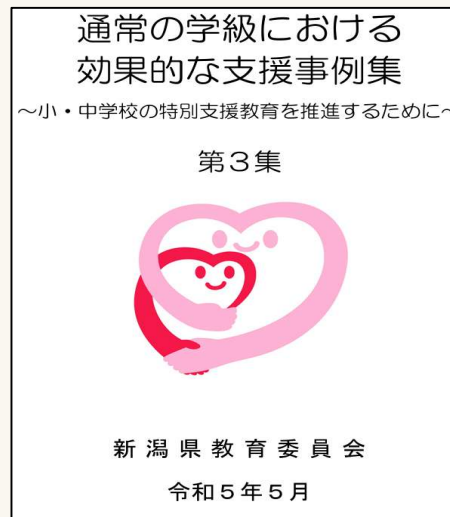
実用的な図解とチェックリスト：単なる理論書ではなく、教室の座席配置、集中できる視覚レイアウト、発問の工夫など、現場の先生がすぐに試せる事例を豊富に網羅。

全県的な教員研修での活用：新任研修や校内研修で本事例集を用いた模擬授業・事例検討を徹底的に行い、全教職員の「支援の底上げ」に寄与。

合理的配慮の具体化：事例集があることで、現場教員が保護者に対して「このような具体的配慮を行います」と自信を持って対話・提示できる大きな支えに。

3. 通級指導教室の取組

【事例紹介】通級の成果を通常の学級へ活かす「連動型支援」の実際



「通級での学びは通常の学級で発揮されてこそ本物」

『効果的な支援事例集3』が示す核心モデル・通級教室で修得した専門的スキル(SST・感情コントロール・視覚支援)を、在籍する通常の学級での日常授業へ接続。
・担任と通級担当が目標と手立てを共有し、出来た瞬間に即時評価・称賛する好循環を構築。

事例① 感情コントロール・SSTの連動(行動・対人関係)

【通級での指導】深呼吸や「指示カード」「感情カード」「ソーシャルスキルカルタ」を用いた自己コントロールと他者理解の練習。
【通常学級での手立て】通級と同じカードやトークン表を自学級に常備。パニックや不適切行動が激減し、落ち着いた学習参加を達成。

事例② 学習面(読み・書き・集中)の連動(視覚化・環境調整)

【通級での指導】MIM(多層指導モデル)や音声読み上げペン、タイマー等を活用した特性別アセスメントとトレーニング。
【通常学級での手立て】授業冒頭の言葉の確認、タブレットのスライド機能活用、集中しやすい座席配置により読み書きの抵抗感を軽減。

全校への波及効果:対象児支援から「ユニバーサルデザイン」へ

【学級全体の学びやすさ】通級の教材や分かりやすい構造化の手立てが、対象児だけでなく学級全体の理解促進・安心感へ波及。
【チーム学校の強化】事例集Q&Aの活用により、担任教員が「今日からの指導」に自信を持ち、学校全体の特別支援の底上げを実現。

4. まとめ

「共に学び、共に育つ」教育のさらなる深化に向けて

地域社会全体で子どもたちの多様な育ちを支える未来へ

多様な「学びの場」の創出：教育だけでなく、労働、福祉、医療、地域社会がシームレスに結合し、子どもたちが卒業後も豊かに安心して生きていける環境を創り出す。

教員の専門性向上と指導力の標準化：「特定の学校だけが特別支援教育の専門性が高い」から脱却し、全県どこにいても質の高い一貫した特別支援教育を受けられる研修・配置の仕組み化。

誰もが輝く共生社会のモデル：新潟大会を機に、インクルーシブ学校運営分校モデルや、5ブロックBMの就労ネットワークを「新潟発の確かな手本」として全国へ波及。

4. まとめ

全ての子どもが自分らしく学び、地域とともに成長する未来を

新潟から全国の仲間へ

「全ての子どもが自分らしく学び、地域とともに成長する新潟の教育を全国へ」本新潟大会が、皆様の地域における特別支援教育推進の温かい一歩、そしてインクルーシブ社会実現への確かなヒントとなることをご期待申し上げます。

ご清聴、誠にありがとうございました。新潟大会へのご参加を、心より感謝申し上げます。

